原　著

大学における女性の健康支援状況

西岡笑子[1]，三上由美子[1]，飯島佐知子[2]，横山和仁[3,4]

防医大誌（2022）**47**（1）：78－89

要旨：大学における女性の健康支援の実施状況を明らかにすることを目的とし，全国767大学保健センター（保健室）に実態調査を行った。更に，公益財団法人 全国大学保健管理協会ホームページ（以下，HP）会員一覧に掲載されている4～6年制大学476大学の保健管理センター等のホームページにアクセスを行い，web上での女性のヘルスリテラシー啓発の取り組みについて調査を行った。実態調査では，161通（21.0％）の回答があった。健康相談，医師による診察は，内科，精神科，婦人科の順に多かった。プレコンセプションケア18項目に関連する健康教育講座の対象者は大学1年生が最も多く，次いで全学年対象が多かった。参加者数の合計では，禁煙やアルコールなど，広く大学生に周知すべき健康教育の内容が多く，将来の妊娠・出産，ライフプラン，子宮頸がん，葉酸摂取等の生殖に関連する項目は少なかった。女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動の実施状況は，25大学（15.5％）が実施していると回答した。教材の多くは自治体，企業より送付されたリーフレットを学生に配布し情報提供を行っていた。朝食の摂取を勧めるため，朝食を安価に提供していると回答した大学は31大学（19.3％）に上り，多くの大学が100円～200円程度で食事を提供していた。大学HP調査では，保健センターHPから女性の健康ヘルスケアラボへのリンクがある，HPにて乳がん，子宮頸がん，女性ホルモン，性暴力等について情報提供，婦人科医の診察，女性専門外来を設ける等の取組がみられた。今後，女子学生健康相談や女性外来を行っている大学への聞き取り調査を行い，他大学での実用化について検討していく必要がある。

索引用語：ヘルスリテラシー／女性の健康／大学生／健康支援

緒　言

我が国の平成28年の平均寿命は男性80.98年，女性87.14年であり，世界一の長寿国になった[1)]。一方，健康寿命は男性72.14年，女性74.79年[1)]であり，女性は12.35年間日常生活に支障のある状態で暮らしているため，女性の健康寿命の延伸が重要な課題となっている。我が国では1990年代から新健康フロンティア戦略等に基づき，妊娠・出産時や疾病予防等個別の健康施策が行われてきた[2)]が，生涯にわたる女性の健康という視点からの包括的支援については十分とはいえない状況である。現在，

[1] 防衛医科大学校医学教育部看護学科母性看護学講座
Department of Maternal Nursing, National Defense Medical College, Tokorozawa, Saitama 359-8513, Japan
[2] 順天堂大学大学院医療看護学研究科看護管理学
Department of Nursing management, Juntendo University Graduate School of Health Care and Nursing, Urayasu, Chiba 279-0023, Japan
[3] 国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻
Department of Public Health, International University of Health and Welfare, Graduate School of Medicine, Minato-City, Tokyo 107-8402, Japan
[4] 順天堂大学大学院医学研究科疫学・環境医学
Department of Epidemiology and Environmental Health, Juntendo University Graduate School of Medicine, Bunkyo-City ,Tokyo 113-8421, Japan

令和3年8月31日受付
令和3年10月4日受理

政府は女性の活躍推進を成長戦略のひとつとして掲げている。女性が社会で活躍する上で，健康であることはその基本となる。しかし，これまで女性は，女性特有の疾患やライフステージごとの身体の変化など，自身の身体と健康について学ぶ機会が十分に提供されてきたとはいえない。

筆者らは，平成 29 年度に全国の働く女性 2,000 名（42.1 ± 9.0 歳）に対し，女性の健康に関する web 調査を実施した。その結果，月経前症候群（以下，PMS）または月経随伴症状のある者は 70.7％にものぼり，そのうち婦人科受診をした者は 19％のみで，我慢している，何も対応しなかった者が 67.5％である [3] ことが明らかとなった。PMS や月経随伴症状は，不快な症状がありながらも，羞恥心や誰に相談して良いのかわからないために治療を受ける機会を逃し，仕事や家庭生活を送る上で障害となっていた。今後は女性特有の症状について学習する機会を設ける，日常生活を見直すきっかけづくりを行う，学校や地域等で気軽に相談できる体制を構築していくことが必要である。さらに，子宮頸がん，乳がん検診受検については，50 ～ 60％が未受検であり，その理由の 80 ～ 90％は，時間がない，場所が遠い，費用が高い，機会がない [3] であった。健康教育，時間，費用，機会を提供することができれば，受検率の上昇や，早期発見，治療に繋げることが期待できる。

大学生は，大学教育における専門科目の他，保健体育等の授業で女性の健康も含めた知識を学習する最後の機会であるといえるが，大学における女性の健康教育についての全国調査の報告は見当たらない。本研究は，大学における女性の健康支援実態及び課題を明らかにすることを目的とした。

方　　法

1. 調査方法

1）全国767大学保健センター，保健室（以下大学保健センター）で学生の健康支援に関わっている担当者に対し，令和元年度の実績に基づく実態調査を行った。

（1）調査項目：健康相談実施の有無，相談内容と件数，大学内における診療の状況，子宮頸がん検診の受診勧奨状況，プレコンセプションケア [5] に関する健康講座およびその他女性の健康の実施状況，女性の健康に関するパンフレット等の情報提供媒体，朝食の安価提供等食育に関する取り組みについて質問紙郵送法にて回答を求めた。なお，女性の健康に関する健康講座，講義やゼミ活動，啓発活動などの実施状況の回答について，医療・看護系大学における専門職の講義か否かは問わなかった。

2）公益財団法人 全国大学保健管理協会ホームページ会員一覧 [4] に掲載されている4年制大学476大学の保健管理センター等のホームページにアクセスをし，web上での女性のヘルスリテラシー啓発の取り組みについて調査を行った。

2. 用語の操作的定義

プレコンセプションケアとは，妊娠前の女性とカップルに医学的・行動学的・社会的な保健介入を行うこと（WHO, 2012）[6]，前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的，心理的および社会的な健康の保持および増進（日本 , 2019）[7] とされている。本研究では,「適切な時期に適切な知識・情報を提供し，若い男女が将来のライフプランを考えて，日々の生活や健康と向き合うこと」とした。

3. 調査期間

令和 3 年 2 月～令和 3 年 3 月31日。

本研究は，順天堂大学医療看護学部研究等倫理審査委員会の承認を得て実施した。

（順看倫第2020-74号）

結　　果

1. 質問紙調査

全国 767 大学の保健管理センターに調査票を郵送し, 161 通(21.0％)の回収があった。内訳は, 国立大学 16 通(18.6％), 公立大学 26 通(28.0％), 私立大学 119 通（19.6％）であった。161 大学中, 共学が 145 大学, 女子大が 16 大学であった。医療・看護系学部・学科大学（医学部，看護学部，薬学部，リハビリーテーション等）を有していたのは 71 大学（44.1％）であり，一般大学は 90 大学（55.9％）であった。

1）健康相談

女子学生からの健康相談については，相談内容，男女毎に集計していない大学や非公開の大

学も数多くみられた。健康相談について，対面，電話での相談ありと回答した大学が，134大学（83.2%），メールやLINEでの相談ありと回答した大学が77大学（47.8%）であった。メンタルヘルス（学業や対人関係の問題，不眠など）15,561件，一般的身体症状（便秘，低血圧等）12,000件に次いで月経，妊娠・出産，中絶，低用量ピル，性感染症，子宮頸がん検診，その他婦人科系疾患が1,658件であった。内訳は月経，PMSが1,186件，妊娠・出産，中絶が86件，低用量ピルが53件，性感染症が36件，子宮頸がん検診が26件，その他婦人科疾患が271件であった。他，やせ・ダイエットが407件，将来の妊娠・出産を含むライフプランが18件，デート・ドメスティックバイオレンス（以下デートDV）が36件，その他が1,235件であった。

2）保健センター等での診療日，担当医および診察の内訳

（1）保健センターでの診療は，36大学（22.3%）が行っていると回答した。診療日は週5日と回答した大学が最も多く（21大学），次いで週1日，週3日，週4日，週2日であった。診療時間は，午前～午後と回答した大学が最も多く（21大学）次いで，午後のみ，昼休み，午前または午後のみ等，大学の規模や学生数に合わせて行っていた。担当医師の専門は内科（13大学），内科・精神科（8大学），精神科（3大学）が多い中，婦人科医師の担当日がある大学（5大学）もみられた。

（2）診察の内訳は，内科が最も多く（6,653件），次いで精神科（5,199件），婦人科（385件）であった。

3）子宮頸がん検診の受診勧奨状況

子宮頸がん検診受診を勧める目的で，大学構内または近隣などへの子宮頸がん検診車の手配はいずれの大学も実施していなかった。

子宮頸がん検診受診勧奨ポスター掲示やリーフレットの配架は40（24.8%）の大学で実施していた。ポスターおよびリーフレットは，大学所在地の自治体作成のものがほとんどであった。子宮頸がん検診の受診勧奨は17（10.6%）の大学で実施しており，一般教養科目の授業内，健康講座で実施していた。

4）プレコンセプションケアに関連する健康教育講座の開催（表1）

プレコンセプションケアに関連する健康教育講座の開催について，部分的にでも含む講座を開催しているかについて，国立成育医療研究センター　プレコンセプションケアセンターHP「プレコンセプションケア・チェックシート」[7]を引用，一部改変し18項目について尋ねた。64大学（39.8%）が実施していると回答した。講座受講対象の学年は，大学1年生が最も多く，次いで，全学年対象が多かった。入学時のオリエンテーションの中で実施している大学，授業として実施している大学もみられた。参加者数の合計では，禁煙，アルコール，危険ドラッグ，ワクチン接種の順に多かった。参加者数の上位には，広く大学生に周知すべき一般的な健康教育の内容が多かった。一方，講座を開催していた大学数では，アルコール，禁煙，危険ドラッグ，将来の妊娠・出産，ライフプランについて考える，の順に多かった。講師担当者は，将来の妊娠・出産，ライフプランについては，助産師，保健師，婦人科医師の順に多く，それ以外の項目は，保健師，保健センター医師，職員が行っていた。

5）その他，以下の女性の健康に関する講座開催について（表1）

その他，4）以外のプレコンセプションケア関連と女性の生涯にわたる健康に関する講座開催について，8項目について尋ねた。29大学（18.0%）が実施していると回答した。講座受講対象の学年は，大学1年生が最も多く，次いで，全学年対象が多かった。入学時のオリエンテーションの中で実施している大学，授業として実施している大学もみられた。参加者数の合計では，デートDV，性暴力，望まない妊娠の予防，アフターピル，女性ホルモン，月経の順に多かった。講座を開催していた大学数では，デートDV，多様な性のあり方，レズビアン，ゲイ，バイセクシュアル，トランスジェンダー（以下，LGBT），性暴力，望まない妊娠の予防，アフターピルの順に多かった。参加者数，大学数ともに順位はほぼ同様であった。講座名は「生命科学」，「健康教育」，「ウェルネスの科学」，「自分の生と性を感じて今を生きる」，「自分の性”セクシュアリティ”について考えよう」等で開

表 1．プレコンセプションケアに関連する健康教育講座の開催

	女性の健康に関する項目	実施大学数	対象学年			実施回数			参加学生合計	1 大学あたり参加者中央値（範囲）	担当講師職種（大学数）
			1 年生	全学年	その他	1 回	2 回	それ以上			
プレコンセプションケア	① 将来の妊娠・出産やライフプランについて考えてみよう（避妊や計画的妊娠，卵子老化・不妊の知識を含む）	21	13	5	3	14	5	2	5,650	100（5-1,200）	助産師（6）保健師（4）婦人科医師（3）看護師 / 教員（2）保健センター内科医師，保健センター職員，教授，医師，カウンセラー，保健福祉事務所と共催，県より保健師派遣，助産師派遣，NPO ピルコン派遣（各 1）
	② 適正体重をキープしよう（肥満ややせの予防）	17	10	4	3	14	2	1	7,033	100（8-2,400）	保健師（4），保健センター医師（4），助産師（2），職員（2），看護師 / 教員，医師，カウンセラー（各 1）
	③ 禁煙する，受動喫煙を避ける	28	15	10	3	24	2	2	14,523	200（40-2,400）	内科医師（5），保健センター職員（4），保健師（3），保健センター教授（2），助産師，看護師 / 教員，保健センター医師，カウンセラー，衛生学教員，職員，日本禁煙学会より派遣，市より薬剤師派遣（各 1）
	④ アルコールを控える	30	17	8	5	24	4	2	12,260	140（2-2,400）	保健センター職員（3），保健センター教授（2），助産師，看護師 / 教員，センター長，保健センター医師，カウンセラー，衛生学教員，教員，職員，学務課長，アスクヒューマンケアより派遣（各 1）
	⑤ バランスのよい食事をこころがける	16	8	3	5	13	2	3	7,555	200（40-2,400）	保健センター教授（2），保健師（2），助産師，看護師 / 教員，保健センター内科医師，婦人科医師，保健センター職員，衛生学教員，カウンセラー（各 1）
	⑥ 食事とサプリメントから葉酸を積極的に摂取しよう	3	1	1	1	3	0	0	290	100（90-100）	助産師，保健センター内科医師（各 1）
	⑦ 150 分 / 週運動しよう，こころもからだも活発に	9	5	1	3	5	1	3	2,210	95（10-1,600）	保健師，保健管理センター教授，保健センター内科医師，公衆衛生学教員，教員，カウンセラー，バレトンインストラクター派遣（各 1）
	⑧ ストレスをためこまない	13	5	3	5	11	1	1	6,432	150（16-2,400）	カウンセラー（臨床心理士含）（5），保健師，保健管理センター教授，保健センター医師，医師，保健センター職員，成人看護学教員，教員（各 1）
	⑨ 感染症から自分を守ろう（風疹・B 型肝炎・C 型肝炎・性感染症など）	16	9	4	5	13	2	3	7,555	200（40-2,400）	保健師（2），保健管理センター教授（2），助産師，看護師 / 教員，保健センター内科医師，婦人科医，保健センター職員，衛生学教員，教員，カウンセラー（各 1）
	⑩ ワクチン接種をしよう（風疹・インフルエンザワクチンなど）	20	11	3	5	14	5	0	8,443	180（40-1,700）	保健センター職員（5），看護師（3），保健センター内科医師（2），教員（2），保健師，保健管理センター長，センター教授，医師（各 1）
	⑪ 危険ドラッグを使用しない	24	16	7	1	21	1	2	9,688	280（20-1,700）	警察官（6），保健センター内科医師（2），保健師，保健管理センター教授，医師，教授，保健センター職員，衛生学教員，市行政職員，1 年生担当 or 学生部，市の薬剤師派遣，職員（各 1）
	⑫ 有害な薬品を避ける	8	5	2	1	7	1	1	4,040	130（80-1,700）	警察官（2），保健センター医師（2），1 年生担当 or 学生部（1）
	⑬ 生活習慣病をチェックしよう（血圧・糖尿病・検尿など）	13	4	5	4	9	0	3	6,272	200（40-1,700）	保健センター内科医師（3），保健管理センター教授（2），保健師，看護師，医師，教員，成人看護教員，衛生学教員（各 1）
	⑭ 子宮頸がんのワクチンを受けよう	10	4	3	3	6	0	2	3,832	200（40-1,300）	保健師（2），保健センター内科医師（2），保健管理センター教授，医師，婦人科医，愛知県派遣婦人科医（各 1）
	⑮ 子宮頸がんの検診を受けよう	9	4	3	2	6	1	1	3,068	218（40-1,000）	保健師，保健管理センター教授，保健センター医師，医師，婦人科医，愛知県派遣婦人科医，県より医師派遣，県より保健師派遣（各 1）
	⑯ 自分と家族の病気を知っておこう（生活習慣病・遺伝疾患など）	6	0	1	5	3	0	2	507	90（40-200）	保健管理センター教授，保健センター医師，成人看護学教員，教員（各 1）
	⑰ 歯のケアをしよう	7	3	3	1	4	0	1	1,652	100（50-1,300）	保健センター内科医師，歯科医師，外部講師（各 1）
	⑱ かかりつけの婦人科医をつくろう	6	3	1	2	4	1	1	2,340	150（40-1,000）	助産師，保健師，保健管理センター教授，保健センター医師，婦人科医師（各 1）
その他の女性の健康関連	① 自分の持病と妊娠の関係について知ろう（薬の内服についてなど）	2	1	0	1	1	0	0	100		不明
	② 女性ホルモン，月経	7	4	2	1	5	2	0	1,808	100（10-1,000）	婦人科医（2），助産師，看護師，保健師，医師，婦人科校医，保健センター内科医，保健所（各 1）
	③ 望まない妊娠の予防，アフターピル	8	6	2	0	5	2	0	1,838	175（100-1,000）	助産師（2），婦人科医，保健師，婦人科医，保健センター内科医，助産学教員（各 1）
	④ デート DV	16	6	7	3	12	5	0	3,231	202（2-700）	助産師（2），カウンセラー（3），NPO 法人（2），助産学教員，ハラスメント担当教員，学生委員会，学生健康支援センター，警察，市男女共同共生推進課，財団専門家派遣（各 1）
	⑤ 性暴力（レイプ，盗撮，痴漢，薬物混入，ハラスメントなど）	9	5	1	3	4	2	0	2,584	200（26-1,000）	保健師（2），ハラスメント担当教員（2），助産師，助産学教員，社会福祉士，警察，財団専門家派遣（各 1）
	⑥ 性的同意	3	2	1	0	1	1	0	300	150（50-200）	助産師
	⑦ 多様な性のあり方，LGBT	10	4	4	2	6	3	0	1,062	140（14-300）	保健師（2），キャンパスハラスメント防止委員会（2），助産師，社会福祉士，教員，NPO 法人，当事者，ダイバーシティ健康センターからの派遣（各 1）
	⑧ 貧血・骨粗しょう症予防	1	0	1	0	1	0	0	不明		保健センター管理栄養士

催していた。

6）女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動の実施状況について（表 2 ）

25 大学（15.5%）が女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動を実施していると回答した。

講義・授業は，看護学部などの専門科目として開講しているものが 18 講座，一般教養科目として開講しているものが 10 講座，保健体育科目として開講しているものが 7 講座，公開講座が 3 講座，新入生対象が 2 講座，保健センター実施が 2 講座，ゼミナール形式で開講しているものが 2 講座，定期健康診断時に同日実施，特別授業，キャリア教育，夏休み前のガイダンスとして実施していたものがそれぞれ 1 講座であった。講義・授業のテーマは，性感染症予防 7 講座，女性ホルモン，月経，妊娠，出産 6 講座，LGBT 5 講座，栄養・運動・休養・生活習慣改善 5 講座，デート DV，DV，ハラスメント予防 5 講座，禁煙 3 講座，望まない妊娠予防・リプロダクティブヘルス / ライツ 3 講座，プレコンセプションケア 2 講座，子宮頸がん検診 2 講座，婦人科疾患 2 講座，妊娠・育児期の栄養 2 講座，妊娠，出産，避妊，性暴力予防，少子化・妊娠・出産を取り巻く社会状況，妊娠・出産，合併症，性感染症，女性の身体，ストレス，アルコールがそれぞれ 1 講座であった。

7）女性の健康に関する情報提供のために，冊子，リーフレット等の配布，またはホームページ等での公開や啓発活動（表 3 ）

大学で作成または自治体，企業が作成した冊子，リーフレット等の配布，またはホームページ等での公開や啓発活動は 73 大学（45.3%）がしていると回答した。リーフレットの内容は，配布大学数（延べ）で性感染症が最も多く，月経，デート DV・DV，妊娠相談・妊娠 SOS，子宮頸がん，性暴力，妊孕性・不妊・妊娠・ライフプラン，女性の健康総合の順に多かった。

配布したパンフレット等の作成者（延べ）は，都道府県 80，市 34，企業 17，出版社 16，製薬会社 10，NPO 7，職能団体 6，厚労省 4，文科省・厚労省・警察庁の合同が 2，厚労科研研究 2，内閣府 1，警視庁 1 であった。ドコモヘルスケアが作成した基礎体温，月経に関するリーフレット「カラダのキモチを知って女子力アップ！」は，73 大学中 14 大学（19.1%）と多くの大学で配布されていた。形態は，リーフレット 177，カード 46，冊子 6，漫画 3，ポスター，クリアファイル，油取り紙，ティッシュがそれぞれ 1 であった。大学で独自に作成していると回答したのは 73 大学中 12 大学（16.4%）であり，リーフレット（または冊子）は，延べ 29 種類であった。1 大学あたり，1 ～ 2 種類であり，最も多かったのは 5 種類（1 大学）であった。形態は，リーフレット 17，冊子 4，カード 3，保健だより 1 であった。

配布場所 / 方法は，保健センター・保健室 43，学生ラウンジ・ブース・ホール 7，新入生オリエンテーションで配布 7，講義で配布 5，トイレ 5，玄関・事務局窓口 4，健診時女子学生に配布 3，掲示板 3，入学時送付資料 2，健診時 1 年生に配布 2，健診時希望者に配布 2，入学時送付資料 2，健康診断再検査来室者に配布，健康診断受診セットに同封し，全学生へ配布，婦人科校医面談で配布，大学祭で配布，食堂で配布がそれぞれ 1 であった。

学内 HP 等オンラインで情報提供を行っていると回答したのは，3 大学であり，内容は，性暴力，LGBT，子宮頸がん，デート DV，基礎体温測定，一般的な健康情報であった。

8）学生の食育等の目的で，学食で朝食を提供する取り組みの有無

35 大学（21.7%）が学食で朝食を提供していると回答した。朝食の摂取を勧めるため，朝食を無料で提供していたのは 1 大学であった。朝食の摂取を勧めるため，朝食を安価に提供していたのは 31 大学（19.3%）であった。多くの大学が 100 円～ 200 円程度で定食等を提供していた。その他，食育やダイエットに関するポスターの掲示やリーフレットの配架や，健診結果に基づき，痩せ，肥満の学生に個別指導を行っている大学もみられた。

2. 大学ホームページ調査

476 校中，ホームページからのリンクのない大学，Not Found 等によりアクセスできない大学が 60 大学，リンクをクリックすると大学のホームページトップ画面にアクセスされた大学が 8 大学，学生支援・相談，キャンパスライフ

表 2．女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動の実施状況

	実施大学数	対象学年			実施回数			参加学生合計	担当講師職種（大学数）
		1 年生	全学年	その他	1 回	2 回	それ以上		
性感染症予防	7	1	3	2	6	1		1,219	母性看護学教員（2），助産学教員，保健センター職員，保健センター医師，体育教員（各 1）
健康と女性～ HIV 感染症について（健康行動学体育授業）	1		1		1			413	保健体育教員
プレコンセプションケア（現代社会と医学 1「心身の健康維持のために」）	1			1	1			400	医師
子宮頸がん啓発講座（学内公開講座）	1		1		1			70	保健センター
子宮頸がん検診啓発（講演会など）	1								詳細不明
妊娠・出産のための知識（体育学講義「健康と運動の科学」）	1			1	1			15	医師
「女性を知る～身体・心理・社会の側面より」	1			1			1	300	専任教員（5）・ゲスト・校医
ライフスパンと健康（予防の医学：妊娠，出産，避妊，性暴力予防に関する講義）	1		1		1			450	保健センター職員
身体への気づき女性のからだ（共通教育科目）	1			1			1	74	助産師
身体への気づき保健体育（共通教育科目）：健康づくりに重要な 3 要素運動・栄養・休養について学ぶ	1			1			1	25	保健体育教員
女性生殖器系の疾患	1			1	1			80	医師
健康と肥満～ウェイトコントロール（健康行動学体育授業）	1		1				1	413	保健体育教員
健美アッププログラム（骨密度や体組成等の測定と関連する生活習慣の評価を実施し今後の健康管理のアドバイスを行う）	1		1				1	83	保健センター職員
適正体重と運動（健康と運動の授業）	1		1		1			60	保健体育教員
食生活ワンポイントアドバイス（定期健康診断時に同日実施）	1			1	1			1,600	管理栄養士
各ライフステージの栄養（応用栄養学など）	1	1					1	30	栄養学教員
禁煙する，受動喫煙を避ける	3		2	1			2	25	保健室職員，ゼミ担当（体育教員），サイネージを活用し啓発
アルコールパッチテストしてみませんか（アルコールが飲める体質か判定し，結果をもとに適正飲酒指導を実施）	1		1				1	43	保健センター職員
ストレスをためこまない	1		1		1			400	心理学教員
健康とストレス（健康行動学体育授業）	1		1		1			413	保健体育教員
リプロダクティブヘルツ / ライツ（保健体育授業）	1	1					1	900	産婦人科医師
女性アスリートの健康について（病態治療学）	1			1	1			35	産婦人科医師
母性看護学	2			2			2	200	母性看護学教員
母性看護学（リプロダリライブヘルス・バランス・ライフとは，性暴力）	1			2		1		90	母性看護学教員
母性看護学概論（将来のパパ，ママの健康体づくりについて）	1			1	1			90	母性看護学教員
母性看護学（人の性の発達と特有な健康問題）	1			1	1			80	母性看護学教員
卒業研究ゼミナール（母性看護学）	1			1			1	7	母性看護学教員
母性看護学概論（女性ホルモン，月経について，自分のサイクルを知ろう）	1			1		1		90	母性看護学教員
DV とこころの健康（精神保健学Ⅱ）	1			1	1			57	福祉教員
LGBT とこころの健康（精神保健学Ⅱ）	1			1	1			57	福祉教員
代表的な婦人科疾患予防法を理解する（身近な医学）	1			1	1			77	精神科医師，産婦人科医師
虐待 ·DV セミナー（学内公開講座）	1		1		1			70	保健センター職員
女性と人種（デート DV の予防と解消にむけて）（人権問題授業）	1			1	1			64	教員
デート DV（保健指導）	1			1		1		10	保健師
生活保健論授業	1	1					1	400	医師教員
ハラスメント（性暴力を含む）	1			1			1	7	保健師
社会学（教養科目）第 2 回講義「なぜ子どもが生まれなくなっているのか」第 3 回講義「妊娠・出産という経験はどのように変わっているのか」	1		1	1			1	40	社会学教員
異文化理解（日本や外国の性的少数者について）	1			1			1	40	社会学教員
臨床医学（「妊娠と分娩・妊娠合併症」，「性行為感染症」）	1			1			1	40	教員
応用栄養学Ⅱ（母性･成長期，母性栄養･乳児期栄養）	1			1			1	40	教員
性の目覚め 自分の性とともに生きるために多様な性について（いのちと倫理）	1	1			1			82	キリスト教神学 / 哲学教員（神父）
出生前診断と障害，中絶。自分がもし生まれてこなかったらと考えてみる（いのちと倫理）	1	1			1			82	キリスト教神学 / 哲学教員（神父）
キャリアアップセミナー	1		1				1	150	学内教員（専門性を活かし，各テーマを担当）
ジェンダーと健康（大学院，健康管理学授業）	1			1	1			5	保健センター職員
LGBT（多文化と多様性の理解）	1	1			1			90	母性看護学教員
セクシュアルマイノリティ～ LGBTQ について（多文化社会授業）	1			1	1			52	教員

表 3．女性の健康に関する情報提供（冊子，リーフレット，HP）内容

パンフレット内容	配布大学数（延べ）	作成者	パンフレットタイトル（一部抜粋）
性感染症	36	国（厚労省），自治体（都道府県･市町村），出版社（東京法規）検査会社（ロシュ･ダイアグノスティックス），製薬会社（バイエル）	知っておきたい性感染症 mini 講座（厚労省），検査しないとおしおきよ !!（厚労省），ふぉーてぃ（東京都），性感染症ってどんな病気？（東京都），梅毒あなたは大丈夫？（東京都），ともに生きるために HIV/AIDS（東京都），私が守るふたりの未来「アイステル」のその先へ（山梨県），知っとこ，性感染症とエイズ，ホンマのこと（神戸市），自分は大丈夫と思っていませんか？ STI（バイエル）
月経	29	企業（NTT ドコモヘルスケア），製薬会社（バイエル，帝国臓器製薬，あすか製薬），大学作成	カラダのキモチを知って女子力アップ（NTT ドコモヘルスケア），月経～月経異常～，月経～セルフケア～（聖徳大学），もっと女の子が HAPPY ！に生きる～自分の身体を知り，自分でコントロールする～月経（富山県立大学）
子宮頸がん	22	自治体（都道府県・市町村），日本産婦人科医会，製薬会社（グラクソ・スミスクライン），大学作成	女の子のための大切なはなし（東京都），子宮頸がん（富山県立大学）
妊孕性・不妊・妊娠・ライフプラン	14	自治体（都道府県・市町村）	いつか子供がほしいと思っているあなたへ（東京都） ライフプランをいつ考えるの　今でしょ？（兵庫県）
妊娠相談，妊娠 SOS	23	自治体（都道府県・市町村）	どうしよう妊娠・こうしよう相談（東京都） 妊娠したかも？と思ったら（東京都） 思いがけない妊娠 SOS（兵庫県・神戸市）
避妊，ピル	2	製薬会社（バイエル），日本家族計画協会	避妊を正しく実行するために BCM（バイエル） ピルについて知ろう！（日本家族計画協会）
女性の健康総合	6	大学作成，出版社（東京法規），自治体（市町村）	れでぃーす･ノート（獨協大学），女性の健康手帳（島根大学），女性のヘルスアップ BOOK，わたしの夢をかなえる健康ノート（東京法規），女性のためのサポートハンドブック（熊本市）
女性相談	6	自治体（都道府県・市町村男女共同参画センター）	ガールズ相談（札幌市） 女性のための健康ホットライン（東京都）
ダイエット・やせ・肥満	5	自治体（都道府県），大学作成	ちょっと待った !! そのダイエット本当に必要?? （群馬県），ヘルシー Diet（田園調布学園大学），
婦人科疾患	4	出版社（東京法規）	婦人科系のトラブルを知ろう！女性特有の病気の基礎知識
デート DV，DV	24	自治体（都道府県・市町村）男女共同参画センター，NPO 法人，大学作成	デート DV を知ろう（仙台市）
性暴力	21	自治体（都道府県・市町村）男女共同参画センター 大学作成	女性のための「もしも」のお役立ち連絡帳（北海道） あなたはひとりじゃない（島根大学）
健康全般	10	大学作成， 一般社団法人国立大学保健管理施設協議会， 自治体（都道府県）	大学生の健康ナビ（岐阜大学），キャンパスでの感染症ハンドブック，保健センターからの健康サポート本（獨協大学），自立した女性を目指して－身につけよう－ self care －（聖徳大学），はじめよう，つづけよう健康増進のしおり（岐阜県栄養士会）
心の健康	6	自治体（都道府県），医師会	一人で悩んでいませんか？（広島県医師会）
ハラスメント予防	3	大学作成	ハラスメント防止ガイドライン（酪農学園大学）
摂食障害	3	自治体（都道府県）	（タイトル記載なし）
性的同意	4	自治体（市町村）男女共同参画センター	必ず知ってほしい，とても大切なこと。性的同意（京都市）
LGBT	3	大学 HP，自治体（都道府県・市町村）	あなたの周りに「いない」のではなく，あなたが「気づいていない」だけかもしれません。（岡山県），性的マイノリティサポートハンドブック（熊本市・医療者向け）
アルコール，禁煙， 犯罪被害者支援，女性の防犯	各 4	自治体（都道府県）男女共同参画センター 自治体（市町村），大学作成，イッキ飲み防止連絡協議会，出版社（東京法規），自治体（都道府県）	お酒とのつきあい方（田園調布学園大学）飲み会の続きは病院？（イッキ飲み防止連絡協議会），お酒と上手に付き合うために（京都府）
朝ごはん，貧血，薬物，がん検診（一般）	各 2	自治体（都道府県），大学作成	知ってた？「朝ごはん」を毎日食べると良いこといっぱい！（群馬県）
愛・避妊・性感染症，デート DV・性感染症	各 1	自治体（市町村），大学作成	愛のこと，性のマナー（田園調布学園大学）

等のページにアクセスされた大学が 8 大学であった。大学保健センター HP から信頼できるサイトとして，女性の健康相談室女性の健康ヘルスケアラボ[8]へのリンクがある大学 (2 大学) や，乳がん，子宮頸がん，女性ホルモン，性暴力について PDF，HP にて啓発を行っていた大学（2 大学)，婦人科医の診察日のあった大学（3 大学)，女性専門外来を設けていた大学（1 大学)，女性内科医師によるレディース相談を設けていた大学（1 大学）などの取り組みを行っていた。

考　　察

1. 質問紙調査

1）健康相談

健康相談は，対面，電話での相談は 134 大学（83.2%）と多くの大学が行っていた。メールや LINE での相談は，77 大学（47.8%）と半数に満たなかったのは，令和元年度について尋ねたからであると考えられる。新型コロナウイルス感染症による休校等により，令和 2 年度は，オンラインでの相談を新規に開始した大学も増加していることが推察され，今回報告した数よりも現在は増加している可能性が考えられる。相談内容は，メンタルヘルス，一般身体症状に次いで月経関連の相談が多かった。161 大学中，共学が 145 大学，女子大が 16 大学であった。学生の男女比率は尋ねていないが，理工系学部等，女子学生の割合が少ない大学からの回答も複数ある中，相談内容の 3 番目に月経関連が多かったことから，多くの女子学生が月経に悩みを抱えていること，また，相談に至らない学生も相当数存在することが考えられるため，広く月経に関する教育を行うこと，保健師，養護教諭による個別相談や，必要時婦人科受診に繋ぐことが望まれる。

2）保健センター等での診療日，担当医および診察の内訳

保健センター等での診療は，週 5 日，授業実施時間帯で行っている大学が多かった。担当医師は内科，精神科が多かったが，婦人科医師が担当している大学は 5 大学であった。相談内容も 3 番目に月経関連が多かったことから，婦人科医師による診察のニーズは高いことが考えられる。診察の内訳は，相談内容にほぼ比例しており，内科，精神科，婦人科の順に多かった。婦人科で，内診等の婦人科診察を実施しているか否かは不明である。婦人科医師による問診を行い，実際の診察は別施設で行っている可能性も考えられる。今後は，婦人科の診察件数が多かった大学に調査を行い，診察内容の詳細や婦人科との連携について明らかにする必要がある。

3）子宮頸がん検診啓発

一般社団法人シンクパールでは，クラウドファンディングにより大学への無料の検診車の派遣およびセミナーの開催を行っている[9]が，今回の調査に回答した大学は子宮頸がん検診受診車の大学への手配は実施していなかった。自由記載欄に「近隣の自治体と大学祭での婦人科検診実施を試みたことがあるが，受検率が低かったためにその年度限りとなった。」との記載もみられたことから，費用対効果を考慮し，婦人科クリニックでの検診を勧める方法が望ましいと考える。

4）プレコンセプションケアに関連する健康教育講座の開催

講座受講対象の学年は，大学 1 年生が最も多く，次いで，全学年対象が多かった。入学時のオリエンテーションの中で実施している大学，授業として実施している大学もみられた。

参加者数の合計では，禁煙，アルコール，危険ドラッグ，ワクチン接種の順に多かった。参加者数の上位には，広く大学生に周知すべき一般的な健康教育の内容が多かった。全 18 項目中，将来の妊娠・出産（10 番目)，ライフプラン（12 番目)，子宮頸がんワクチン接種（13 番目)，子宮頸がん検診（14 番目)，葉酸摂取（18 番目）といった女性の健康に関する項目は下位であった。今後は，女性の健康に関する講座についても，禁煙やアルコールのように，全学生が受講する機会が設けられることが望ましいと考える。

一方，講座を開催していた大学数では，アルコール，禁煙，危険ドラッグ，将来の妊娠・出産，ライフプランについて考える，の順に多かった。将来の妊娠・出産，ライフプランについては，全 18 項目中，4 位と上位を占めていた。少子

化対策として，また，大学生のライフデザインを考えるうえで，加齢による妊孕性の低下に関する教育を行うことの重要性についての認識が高まってきているといえるだろう。しかし，子宮頸がんワクチン接種（11 番目），子宮頸がん検診（12 番目），葉酸摂取（18 番目）については，参加者数の合計と同様下位であった。

講師担当者は，将来の妊娠・出産，ライフプランについては，助産師，保健師，婦人科医師の順に多かった。愛知県では，婦人科医師の講師派遣を行っていた。専門家を外部講師として招聘することで，実際の事例を用いたリアリティのある講義を行うことができ，学生の心により響く講座となっているのではないかと考えられる。大学所在地の自治体と医師会や助産師会等の専門職団体と連携を図り，講師派遣の仕組みが作られることが望ましい。子宮頸がんワクチン接種，子宮頸がん検診，かかりつけ婦人科医，葉酸摂取は，婦人科医師の他，保健師，助産師，内科医，保健センター医師等が担当していた。その他の項目は，保健師，保健センター医師，内科医，保健センター職員が担当しているものが多かった。禁煙は，薬剤師，日本禁煙学会より派遣，危険ドラッグ，有害な薬品は警察官が講師を担当している大学もみられ，テーマに合わせて適切な講師に依頼していることがわかった。

5）4）のプレコンセプションケア・チェックシート以外のプレコンセプションケア関連と女性の生涯にわたる健康に関する講座開催

デート DV，性暴力，女性ホルモン・月経の講座名は，大学生が「参加してみたい」と思えるような工夫がみられていた。大学入学後，性行為も含めた男女交際を開始する者も増加するため[10]，デート DV，性暴力についての講座は，入学時，新学期のオリエンテーション等に組み込んでいく必要があると考える。併せて性的同意や望まない妊娠の予防，アフターピルについての知識提供も重要であると考える。

6）女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動の実施

25 大学（15.5%）が女性の健康に関する講義・講座やゼミ活動，啓発活動を実施していると回答した。講座名に「母性看護学」等専門科目の記載が数多くみられた。看護系大学では，国家試験受験資格のために必修科目として開講している科目が多いため，90 分講義で 15 回など，学習時間も一般大学と比較し多かった。看護系大学での講義は本来の研究目的である「大学における女性の健康支援」とは講座開催の意味が異なるが，専門職のための講義であったとしても，女性の健康に関する講義は自らの健康を考える機会になっていることが考えられる。今回はこれらを区分せずに集計を行った。

一般大学では，一般教養科目，保健体育科目として開講していた。女性の健康，リプロダクティブヘルス / ライツ，体型，月経，妊娠・出産に関しては，社会学，共通教育科目，身近な医学，健康と運動・生命科学といった科目の中で開講していた。ジェンダー，LGBT に関しては，社会学，倫理学，多文化と多様性理解の授業等で学習の機会を得ることができていた。大学を卒業すると，系統的に学習する機会はほとんどないため，大学教育において女性の健康知識を分かり易く伝える機会を設ける必要がある。学内公開講座は参加者が集まらない，関心のある人しか参加しないといった問題点がある。広く多くの大学生に知ってもらうためには，入学時や新年度のオリエンテーションに組み込む他，一般教養や保健体育など，必修科目の授業の中に組み込んでいくことが望ましいと考える。

7）女性の健康に関する情報提供のために，冊子，リーフレット等の配布，またはホームページ等での公開や啓発活動

独自にパンフレット類を作成し配布している大学は 12 大学（74.5%）であったが，多くは，自治体，企業より送付されたリーフレットを学生に配布し情報提供を行っていた。リーフレットの内容は，性感染症，月経，デート DV・DV，妊娠相談･妊娠 SOS，子宮頸がん，性暴力，妊孕性・不妊・妊娠・ライフプラン，女性の健康総合の順に多く，大学生のニーズに合致していると思われる。大学保健センターと大学所在地の自治体や NPO との連携により，これらのリーフレットを必要とする学生に配布されることが望ましい。

大学での配架場所として，保健センター，学

生ラウンジが圧倒的に多かったが，新入生オリエンテーションや健診時に全員に配布など，多くの学生の手に届くような工夫をしている大学もみられた。自治体や企業からの配布数は上限があるため，大学 HP や自治体 HP に PDF を掲載する等によりできるだけ多くの学生の目に触れるような工夫も必要である。

8）学生の食育等の目的で，学食で朝食を提供する取り組みの有無

厚労省による令和元年度民栄養調査の結果によると，朝食欠食率は，20 代男性で 27.9%，女性で 10.2% [11]，やせ（BMI 18.5 未満の割合）は 20 代男性 6.7%，女性 20.7% [11] と深刻な状況である。大学生は，一人暮らしを開始するなど，生活環境の変化が著しい。食事作りの習慣がないまま一人暮らしを始める場合，朝食欠食や，偏った食習慣となってしまう可能性が高い。朝食を安価に提供していた大学は 31 大学（19.5%）に上っており，大学食堂における安価な食事の提供は，大学生の食生活を支えるうえで重要であると考える。

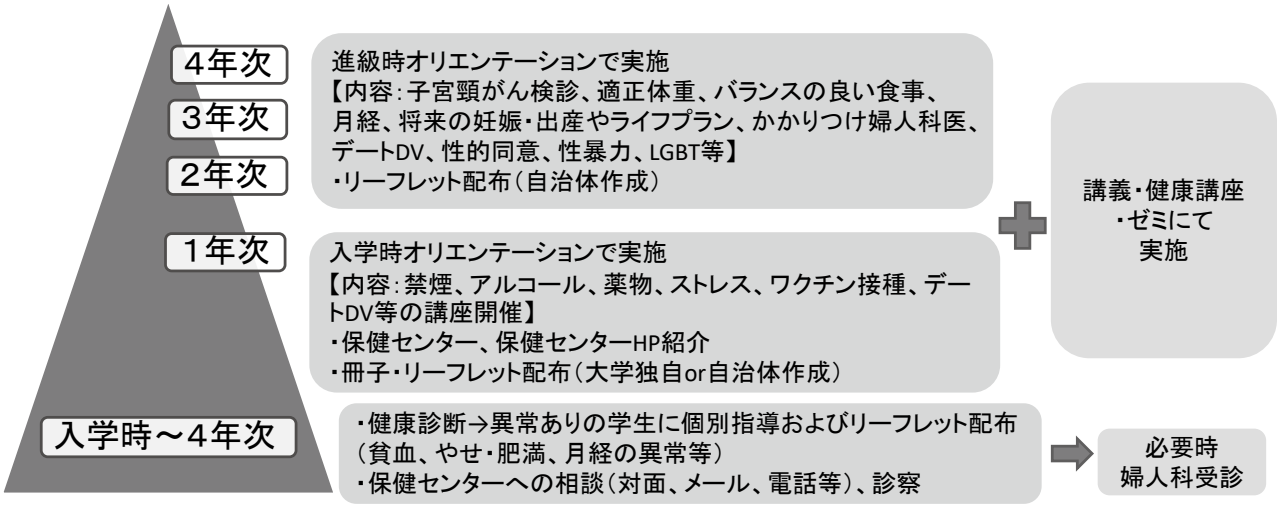
2.　大学ホームページ調査

HP 調査では，web 上で女性のヘルスリテラシー啓発または婦人科医師を校医としていたことが確認できた大学は 10 大学に留まっていた。女性の健康相談室女性の健康ヘルスケアラボ [8] へのリンクがある大学や，女性の健康について HP にて啓発を行っていた大学，婦人科，女性専門外来，女性内科医師によるレディース相談を設けていた大学などの取り組みについては，今後，取り組みの経緯，女子学生への周知方法等，聞き取り調査を行い，詳細について情報収集をする必要がある。

3.　大学における女性の健康支援のあり方について（図）

これまで述べてきた女性の健康支援が充実している大学を参考に，大学における今後の女性の健康支援のあり方について図のように整理した。大学入学時から 4 年次までの支援として，健康診断時に貧血，やせ・肥満，月経の異常等がみられた学生に対し，個別指導およびリーフレットの配布を行い，必要時婦人科受診に繋げることが大切である。1 年次の入学オリエンテーション時には，禁煙やアルコール等，広く大学生のセルフケアのために必要な講座の開催，リーフレットの配布，保健センターの紹介を行い，2 ～ 4 年次の進級オリエンテーション時には，女性の健康支援の各論についての講座開催およびリーフレットの配布を行う必要がある。併せて，講義，健康講座，ゼミ等においてこれらの教育が行えることが望ましい。

健康支援の成果に関する評価については，今回の調査においては明らかにすることはできなかったが，講座開催前後の知識および態度の変化等が考えられる。今後は評価方法も確立してく必要がある。



図．大学における女性の健康支援のあり方

結　　論

全体として，大学における女性の健康支援は十分とはいえない実態が明らかとなった。今後は，本調査において，婦人科診療や女性外来等を行っていると回答した大学への聞き取り調査を行い，他大学での実用化について検討していく必要がある。

利 益 相 反

開示すべき利益相反はない。

本研究は，令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）多様化した女性の活躍の場を考慮した女性の健康の包括的支援の現状把握および評価手法の確立に向けた研究（20FB1002　代表研究者　飯島佐知子）により実施した。

文　　献

1）平成 30 年版高齢社会白書 第 2 節 高齢期の暮らしの動向（2）
健康・福祉　健康寿命と平均寿命の推移
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/gaiyou/s1_2_2.html（参照 2021-07-30）
2）内閣官房 , 内閣府 , 文部科学省 , 厚生労働省 . 新健康フロンティア戦略アクションプラン , 2007
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkou/plan.pdf（参照 2021-07-30）
3）西岡笑子 , 飯島佐知子 , 坂本めぐみ , 他：働く女性の健康に関する web 調査 - 女性特有症状とその対処およびがん検診受検状況 -. 日本健康学会誌 , 第 84 巻 , 144-145, 2018.
4）公益財団法人 全国大学保健管理協会会員一覧
http://health-uv.umin.ac.jp/kaiin/index.html（参照 2020-12-25）
5）国立成育医療研究センター プレコンセプションセンター HP
「プレコンセプションケア・チェックシート」
https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/pcc_check-list.html（参照2021-07-30）
6）WHO Preconception care：Maximizing the gains for maternal and child health　https://www.who.int/maternal_child_adolescent/documents/preconception_care_policy_brief.pdf?ua=1（参照 2021-07-30）
7）国立成育医療研究センター プレコンセプションセンター HP 日本におけるプレコンセプションの定義 https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/pcc_seminar2019.html（参照 2021-07-30）
8）厚生労働省研究班（東京大学医学部藤井班）監修 女性の健康推進室ヘルスケアラボ
https://w-health.jp/（参照 2021-07-30）
9）A-port　朝日新聞社クラウドファンディング　子宮頸がんから未来をまもるプロジェクト　検診車を全国へ！
https://a-port.asahi.com/projects/thinkpearl/（参照 2021-07-30）
10）一般財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会編：「若者の性」白書 第 8 回青少年の性行動全国調査報告 . 小学館 , 2019.
11）厚生労働省：令和元年国民健康・栄養調査
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html（参照 2021-07-30）

Women's health support status at universities in Japan

Emiko NISHIOKA[1], Yumiko MIKAMI[1], Sachiko IIJIMA[2] and Kazuhito YOKOYAMA[3,4]

J. Natl. Def. Med. Coll.（2022）**47**（1）：78－89

Abstract: The purpose of this study was to clarify the implementation status of women's health support at universities. The survey was conducted at 767 university health centers in Japan. There were 161 responses（21.0%）. In addition, we accessed the home pages of the health centers of 476 universities in the member list of the Japan University Health Association. Health consultations and medical examinations were most frequent in internal medicine, psychiatry, and gynecology. Health education courses related to 18 items of preconception care were most commonly targeted by first-year students, followed by all other grades. In terms of the total number of participants, there were many health education topics that should be well-known to university students, such as smoking cessation and alcohol consumption, but there were few topics related to reproductive health. Leaflets sent by local governments and companies were distributed to students. Many university cafeterias offered set meals at low prices. In the home page survey, some universities had links to women's health and health care labs, some had information regarding women's health on their website, and some had gynecological clinic days. It would be valuable to conduct interview surveys with these universities and consider practical applications of these options at other universities.

Key words: health literacy ／ women's health ／ university students ／ health support